

学校と地域を通じた奉仕活動 神奈川県茅ヶ崎市立松浪中学校

学校の概要

学校規模

学級数：11学級

生徒数：382名

教職員数：26名

体験活動の観点からみた学校環境

茅ヶ崎市は神奈川県中央南部に位置し、人口約23万人、東京・横浜に交通至便なベッドタウンとして宅地化が進んでいる。

南部は相模湾に面し、気候は四季を通じて温暖で、「自然と心がふれあう心豊かな快適都市」の実現を目指している。

学校の周囲は、住宅地である。昔から地域とのつながりが深く、学校の活動に協力的で、落ち着いた雰囲気の残る地区である。

生徒は明るく、素直である。学習への取組も真面目で、学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる。

一方で、問題や困難にぶつかったときに、受け身の姿勢がみられる等の課題もみられる。

学区には公立小学校が2校、私立幼稚園・小・中・高等学校、及び2つの児童養護施設がある。各教育機関と地域との連携のあり方を模索して、相互の連携を深めている学園地域である。

連絡先

〒253-0022

神奈川県茅ヶ崎市松浪2丁目

6番地47号

電話：0467-85-1127

体験活動の概要

体験活動の内容

社会福祉施設の訪問や介護などの体験活動により、高齢者や障害のある方への理解を深める。

地域清掃や地域主催の行事にボランティアとして参加し、様々な人と出会い、ふれあうことで地域に生きることを考える。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

第3学年3学級全員参加による体験学習を、総合的な学習の時間の中で実施
福祉についての講話の後、車椅子・インスタントシニア体験学習(5月 4時間)

視覚障害者理解のための福祉1日教室と防災体験学習(6月 4時間)

地域美化活動・海岸清掃(7月,8月,2月 各2~3時間)

地域行事の準備と手伝い(盆踊り大会8月,福祉ふれあいまつり10月,公民館まつり2月 各2~5時間)

地域の社会福祉施設、養護学校、保育園、小学校の訪問(老人ホーム、ケアセンター等,9月,2月 各5~6時間)
体制等の工夫

地区社会福祉協議会、自治会、体育振興会、青少年育成推進協議会等の協力活動の成果等

福祉やボランティアへの関心が高まった。

地域の一員として、互いに助け合い、協力しようとする意欲が育った。

高齢者や障害のある方への理解が深まり、他人を思いやる心を身に付けた。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 地域にある社会福祉施設を訪問して高齢者や子どもたちとふれあう。
- イ 地域清掃や地域主催の行事に積極的に参加して地域の一員としての自覚を深める。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「学校と地域を通じた奉仕活動」

イ 実施学年

第3学年

ウ 活動内容

社会奉仕体験活動：地域にある22カ所の施設訪問

交流体験活動：地域清掃，盆踊り大会，福祉ふれあいまつり，公民館まつりに参加

エ 教育課程上の位置付け

活動内容は「総合的な学習の時間」のテーマ「福祉・ボランティア」として位置付けている。

オ 実施時期（日数や時間数）

平成13年5月から平成14年2月までの9回，35時間

カ 活動場所

地域の施設

キ 継続の状況など

「総合的な学習の時間」の中で今後も継続して体験学習を実施していく。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア 《「福祉・ボランティア」についての学習 - 講演会》（5月19日）

福祉・ボランティア活動に対する関心や意識を高めるため，まず，講演会を開催した。講師は，地域在住の福祉関係に携わっている次の2名にお願いした。

- ・ 介護の会「まつなみ」ふれあい事業部長
- ・ 松浪地区社会福祉協議会副会長

イ 「福祉・ボランティア」についての学習 - 事前研修

次に，体験を通じた研修会を企画し，後に行うボランティア活動の基礎作りとした。

《第1回車椅子体験とインスタントシニア体験》（5月19日）

茅ヶ崎市社会福祉協議会，松浪地区社会福祉協議会及び介護の会「まつなみ」の方々の協力を得て，生徒を2つのグループに分け，交互に体験をする方法で校内で実施した。車椅子体験では，操作の方法や注意点の説明を聞いた後，実際に路上にも出て動いてみた。インスタントシニア体験では，ゴーグルや手足のおもり，耳栓や手袋，サポーターなどを装着して校舎内を歩き，手すりを使って階段などを昇り降りするなど日常生活に必要な行動を体験した。

《第2回 視覚障害者理解のための福祉1日教室の実施と防災体験学習》（6月16日）

生徒を2つのグループに分け、県立ライトセンターと県立総合防災センターを訪問し、研修を深めた。県立ライトセンターでは、視覚障害者の状況や接し方の講話と点字及び誘導法の体験を行った。また、県立総合防災センターでは、地震体験、消火体験、風水害体験、通報体験、煙避難体験等を行い、防災に対する意識を高めた。



(2) 活動の展開

ア 活動の場や施設

《第5回福祉ボランティア体験学習》(9月26日)

茅ヶ崎市及び藤沢市にある老人ホーム、ケアセンター8施設、障害者地域活動センター4施設、小学校や養護学校3校、幼稚園や保育所7園の計22施設を訪問し、ボランティア活動を行う。生徒は事前に施設を選択し、当日は教諭及び松浪地区社会福祉協議会の方々が引率する形をとった。

イ 指導者・協力者

3年所属の教諭及び養護教諭6名と松浪地区社会福祉協議会の方々10名が引率した。施設では担当職員の指示・指導のもとで活動した。

ウ 生徒の活動状況

老人ホーム、ケアセンターでは、食事の手伝いや掃除、車椅子移動の手伝いからゲームや語り、製作などを通じてお年寄りとのふれあいを深めた。出会いの場では、生徒たちは緊張感で表情がこわばっていたが、自分たちから声をかけたりしているうちになごやかな雰囲気になった。帰る直前、生徒が合唱大会に向けて練習していた歌を感謝の気持ちを込めて歌ったところ、とても喜ばれた。

障害者地域活動センターでは、共同製作や共同清掃活動を通して、障害のある人とのふれあいを深めた。ジェスチャーも含めコミュニケーションを深め合った。

小学校や養護学校では、担任の先生の補助としてクラスに入り、給食や掃除の手伝い、運動会練習の準備等を行った。

幼稚園や保育所では各組に分かれて、園児と一緒に遊んだり、物をつくったりした。園児たちの遊びのパワーは大きく、それぞれの個性があふれていた。

施設と参加人数

老人ホーム、ケアセンター

8 施設 参加生徒数 60 名 1 施設当たり 3 ~ 15 名

障害者地域活動センター

4 施設 参加生徒数 23 名 1 施設当たり 2 ~ 10 名

小学校、養護学校

3 校 参加生徒数 11 名 1 校当たり 3 ~ 4 名

幼稚園、保育所

7 園 参加生徒数 21 名 1 園当たり 2 ~ 5 名

(3) 事後指導

総合的な学習の時間を利用して、個人新聞を作成して集録にまとめた。また、それぞれの施設での活動状況を報告する報告会を学年全体で開き、代表者が発表した。

3 体験活動のための体制

(1) 学校と関係団体・施設・機関との連携

茅ヶ崎市社会福祉協議会、松浪地区社会福祉協議会、松浪地区青少年育成推進協議会、介護の会「まつなみ」等の団体、県立ライトセンター、総合防災センターなどの公共機関、老人ホーム、ケアセンターなどの福祉施設、小学校、養護学校、幼稚園、保育所などさまざまな団体、施設、機関の協力で実践した。

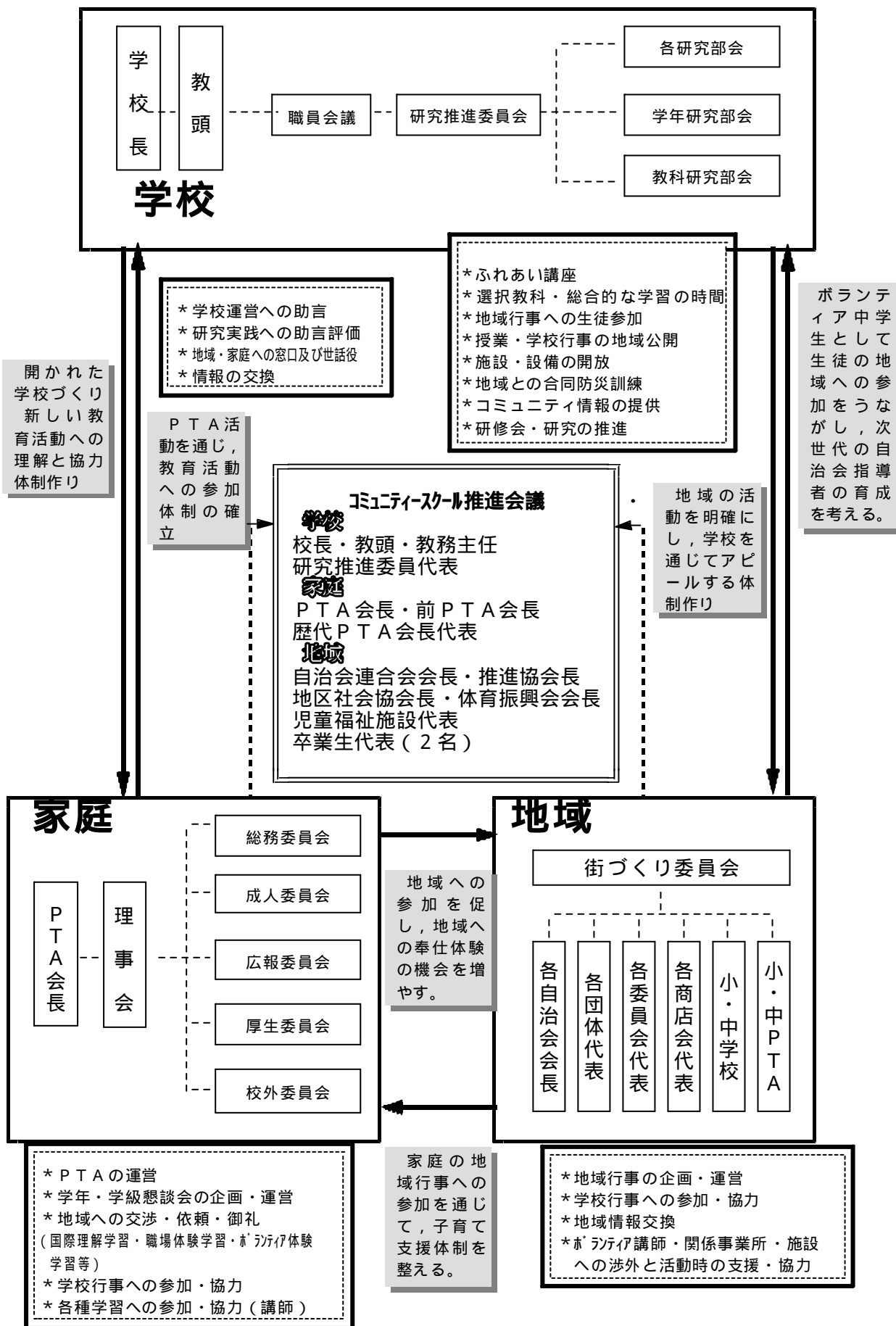
(2) 活動の場や指導者の確保等の手立てや工夫

関係機関には、あらかじめ電話で連絡し、担当教諭が訪問して依頼し、内容等の打ち合わせをした。福祉施設への訪問には、大人の引率が必要なため、3年担当職員その他、松浪地区社会福祉協議会の方々にも協力をお願いした。

(3) 地域開催会議への参加

地域では各団体の会議が年間40回以上開催されている。(主に夕方から)この会議には、校長をはじめ、教頭・担当職員が参加して地域との連携を深め、信頼を得ている。このことが、地域と学校を結ぶ基礎となっている。

学校・家庭・地域のネットワーク



(4) コミュニティスクール推進会議

学校、家庭、地域、養護施設、卒業生代表で構成され、研究方法や内容の共通理解を図り学校と地域の連絡調整の場としている。地域ぐるみで研究を進めていくテーブルとして平成10年に発足した。

4 成果と課題

1年間の研修や体験を通して、生徒は活動への意欲を高め、積極的に取り組むようになってきた。生徒たちの取組は、計画された活動だけに止まらず自発的な活動へと広がりを見せている。例えば、8月に実施した美化運動を経験した生徒は、その後、夏休みの早朝に有志で集いあい、毎日のように海岸清掃を行った。地域にある老人センターでお年寄りとふれあうことができた生徒達は、「大変だったが、感動した。もう一度、ぜひ訪問したい。」と目を輝かせて語っていた。

体験学習後の報告集を見ると、生徒は、「楽しかった。」「貴重な体験だった。」と書いており、有意義な体験活動であったことがうかがえる。

地域の一員として、奉仕活動を進んで行き、協力していこうとしている意欲を、継続・発展させていくことが今後の課題となる。

- 生徒の感想 -

老人ホームに行くことは初めてだったので、こんなに長い時間、多くのお年寄りを相手にするのはものすごく不安だった。しかし実際に訪問してお年寄りが優しかったのでとても楽しい良い体験になった。またその反面、相手の話をうまく聞き取ることができなかつたり、すぐに対応できなかつたりするなど、大変なこともたくさんあった。

これから社会の高齢化が進んでいく。もっと福祉施設が充実すればいいと思う。今回の体験活動で福祉施設の大切さを学びました。

5 今後の取組

学校と地域を通じた奉仕活動は、まとまりのある活動として、3学年において計画的に実施してきたが、1・2年生も地域清掃や地域行事に参加している。地域行事に積極的に参加した生徒は、地域の方々から感謝や励ましの言葉をいただき、さらに意欲が高まってきている。平成14年度は、「総合的な学習の時間」を充分確保できるので、各学年で実施していく予定である。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動には、福祉・ボランティア活動、地域清掃や地域主催行事への参加などがある。活動事例として挙げられている福祉・ボランティア活動では、社会福祉協議会や介護の会をはじめ多くの機関・団体と連携し、事前学習で車椅子体験やインスタントシニア体験などの研修会、視覚障害者の方への接し方の研修を行っている点に特色がある。具体的な活動は、施設を訪問し食事の手伝い、掃除、車椅子移動の手伝い、共同製作など、お年寄りとの交流を深める活動などを行い、生徒は「貴重な体験だった」という感想をもち、さらに自発的な清掃活動を行う生徒も現れているという。

このような活動を行うためには、社会福祉協議会など地域にある様々な機関・団体と密接な連携を図るとともに、ボランティア活動を行うために専門家からの指導を受けるなど事前学習を十分に行うことが大切である。